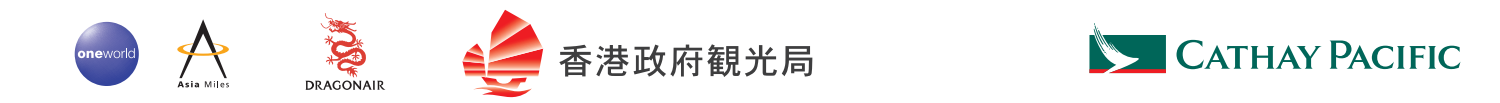




さらにごほうび!
計100万アジア・マイル
が当たる!

キャセイパシフィック航空で、たったの4時間*
香港へ、オトナごほうび旅。

香港スタイル



*日本国内の出発地によって異なります。



飛 龍

FLYING DRAGON

日本香港協会ニュース No.71

三つの世紀を映す香港のストリート



香港島では急な坂道に新旧の建物が重層的に重なって映る

今年の7月1日に中国の特別行政区香港は中国返還15周年を祝いました。
中国華南の素朴な漁村から英国植民地として突如発展が始まった19世紀。香港島北岸に初めて作られた大通りはQueen's Road(皇后大道)と名付けられ、女王陛下の土地ではなかった21世紀の今でもそのまま香港の中心を通っています。地名・道路名は150年以上の英国統治前半では英語優先、1941年から3年8ヶ月の日本占領期には日本語が登場します。Nathan Roadが香取通、Connaught Roadが住吉通など、主要道路が日本風の名に改変されました。戦後、香港は英領植民地に戻ったため、再び英国の人名や地名をもとに命名された道路名が復活します。20世紀後半になると、中国語が主となるような地名・道路名も増えてきました。中環の新埋立地を通る龍和道(Lung Wo Road)などです。
そして15年前の1997年に植民地香港は終わり、中国の特別行政区となりました。そのころ「Queen's Roadは中山路になるらしい」という噂がまことしやかに囁かれたものでした。幸か不幸か返還の日を挟んで目に見えて変わったのは、役所やホテルに掲げられたユニオンジャックと香港植民地旗の青が、中国五星紅旗とパウヒニアの赤い旗に変わったことくらいでした。いまでも、ヘネシーやポットインジャーなど

歴代総督やマーガレットやエドワードなど王族の名が付いた道路が香港中を走っています。
香港には高層ビルが両側に林立するビルの谷底のような大通りや、歩道に太い柱を立てる独特な華南建築である「騎樓(きろう)」の残る通りがあるかと思えば、20世紀中葉の製造業全盛の時代を支えた複数の工場が入居する「工業大厦」も見られるのです。そして所々に鑄鉄製の古い道路名表示板がいまも残っています。いつもの通りを一歩ずらして歩いてみると、香港の歴史を映すストリートがあちこちに走っています。

広報委員会副委員長・「香港ストリート物語」著者 小柳 淳

目次 2012年8月 発行

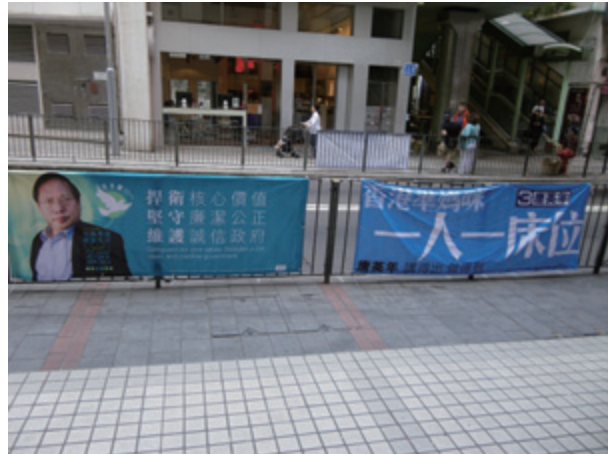
三つの世紀を映す香港のストリート.....	1	関西：「文化部セミナー」「文化部懇親行事」.....	9
行政長官選挙とこれからの香港の政治課題.....	2~3	「HIKARI AOKI LIVE」「昼食セミナー」.....	9
香港対日大型プロモーション.....	4~5	東京：「昇龍道にちなんでの会員投稿」.....	9
香港いまむかし「香港の美しい自然」.....	6	九州：九州日本香港協会	
「70年代の香港とは変わったなあ!」ベスト3.....	6	平成24年度 通常総会・講演会・交流会開催.....	10
連合会・各協会便り		山形：私にとっての香港・マカオ.....	11
連合会：「CMMS第9期修了式、第10期開講のご案内」.....	7	北海道：香港と北海道の交流について.....	12
「2012年香港フォーラムのご案内」.....	7	宮城：平成24年度通常総会及び記念セミナーを開催.....	13
東京：「第19回横濱ドラゴンポーターズ2012に参加しました」.....	8	広島：「ビジネスパートナーとしての香港の再認識」.....	14
「七夕パーティー2012」.....	8	沖縄：「アジア・フォーラム 2012 IN ハノイ 参加報告」.....	15
		キャセイパシフィック航空からのお知らせ.....	16

行政長官選挙とこれからの香港の政治課題

金沢大学人間社会学域国際学類准教授 倉田 徹 (写真も)

今年3月25日実施された行政長官選挙で、梁振英前行政會議召集人が第4期行政長官に選出された。この選挙にはどのような意義があったのか、また、選挙後の香港の政治はどのような展開を見せるのか。選挙を振り返り、その背景を考察することで、今後の香港政治を展望したい。

(1) 返還後初の親政府派候補の競争



何俊仁と唐英年の横断幕 (2012.3.23香港島ミッドレベル)

今回の行政長官選挙では、2010年に民主派と政府の間に画期的な妥協が成立し、政治体制改革法案が可決されたことを受け、選挙委員会の人数が従来の800人から1,200人に増員された。中央政府はこれを以て民主化の進展を誇るが、委員会の内部構成に大きな変化はなく、また、委員を選出する有権者も、相変わらず財界等を中心とした20万人あまりに限られており、制度変更の効果は限定的である。しかし、返還後4回行われた行政長官選挙の選挙戦の展開を振り返ると、この間に実質的な民主化が進展していることを感じさせる。

返還後初の2002年の行政長官選挙では、董建華行政長官が、当時不人気であったにもかかわらず、財界と中央政府の支持を得て無投票で当選した。董建華は2005年に辞職に追いやられ、同年の補選では民意・財界・中央政府の支持を集める曾蔭権が無投票当選した。2007年の選挙では、民主派から梁家傑立法會議員が出馬し、返還後初めて複数候補による競争が展開されが、財界の意向が大きく反映される制度で民主派に勝ち目はなく、選挙前から財界・中央政府の支持を受ける曾蔭権の当選は確実と見られていた。このように、返還後の行政長官選挙においては、民意の影響や、選挙の競争性が徐々に増していることは見て取れたが、いずれも選挙戦が本格化する前に結果の分かる「無風選挙」であった。

これに対し、今回の行政長官選挙では、親政府派から唐英年前政務長官と、梁振英の二名が出馬し、返還後初めて親政府派同志の競争が展開されたことが、何と言っても最大の特徴であった。過去の選挙と異なり、今回は投票日の直前まで両候補は激しいデッドヒートを繰り広げ、予測困難な状況が続いた。これほど面白い選挙で最高指導者が選ばれるのは、香港の歴史において初めてのことと言っても過言ではあるまい。

(2) スキャンダル合戦が逆転を呼んだことの意味

実際この選挙は、非常に「面白い」展開を見せた。江沢民前国家主席につながる中央政府との人脈を持つ唐英年は、過去に立法評議會議員、工商・科学技術局長、財政長官などを歴任し、2007年に政務長官に就任した時点で、次期行政長官の最有力候補と目されてきた。昨年初めまでは、唐英年は支持率においても梁振英を大きくリードしており、中央政府は梁振英に出馬断念を再三促したとも噂された。しかし、選挙前の1年間に情勢は大きく変化し、選挙直前の2ヶ月ほどで梁振英はラストスパートをかけ、一挙に唐英年を抜き去った。

このような大逆転が起きた原因は、相当程度唐英年自身の問題にある。失言を繰り返し、続いて不倫問題・自宅の違法増築問題という、個人的なスキャンダルが次々と暴露されたことで、急速に市民の支持を失い、ついに落選の憂き目を見たのである。選挙戦後半は醜いスキャンダル合戦に陥り、政策論争は二の次にされ、香港の次の指導者を選ぶ選挙にしては何ともお粗末な展開であった。しかし、裏を返せば、スキャンダル「程度」のことでこれほど政治が左右されるのは、実は香港にとっては画期的なことでもある。

そもそも行政長官選挙は民主的な制度ではない。選挙委員の多数は財界代表であり、自らの利益擁護のために最も都合な候補者を選択するのが常識である。実際、今年2月の候補者指名の段階では、世間ですでに激しい唐英年批判の嵐が吹き荒れていたが、それでも唐英年が390名の指名を集め、梁振英の305名を上回った。順当に行けば、李嘉誠長江実業主席ら香港財界の主流が支持する唐英年の当選は揺るがなはずであった。

それにも関わらず梁振英が最後に逆転勝利したのは、投票日直前に中央政府が梁振英支持の意向を示したためであるとされる。したがって、梁振英の当選は、行政長官選挙を事実上中央政府がコントロールしていることの証左ではある。しかし、中央政府が梁振英支持を判断したのは、スキャンダルを受けた唐英年の支持率低下が最大の要因である。つまり、投票権のない一般市民を対象とした民意調査の数字が、中央政府をも動かしたのである。

このことは、香港政治の構造に大きな変化を与える可能性がある。返還前から、中央政府は香港財界との同盟関係によって香港を統治するという戦略をとってきた。1990年代には香港のGDPは中国全体の四分の一に達していた。



投票当日、投票所前での抗議活動 (2012.3.25香港島湾仔コンベンションセンター前)

香港経済を支える財界が、香港ひいては中国の近代化にとって極めて重要であると北京は見ていたのである。しかし、中央政府は今回の選挙において、財界の主流派が支持する唐英年よりも、民意が支持する梁振英を祝福した。このことは、経済発展を実現した北京が、香港財界に遠慮する必要がなくなったことを意味すると考えられる。これは、香港の相対的な地位の低下を象徴する出来事とも言えるが、北京が30年来の財界との同盟の方針を見直すならば、香港の政治、特に民主化には新たな可能性がひらけるかも知れない。

(3) 選挙結果から見える香港の政治課題

日本でかつて不人気の森総理の失言は全て大きく報じられ、厳しい批判の対象となった一方、支持率の高い小泉総理の失言は同様の問題にはならなかったことから分かるように、スキャンダルが大きな政治問題になるのは、その時点で政府が問題を抱えているからでもある。現職の政府ナンバー2であり、曾蔭権の政策を継承すると目された唐英年の失言とスキャンダルが大問題になった背景には、香港の政治・経済情勢の急変に伴う、現政府の支持喪失がある。

曾蔭権時代の香港の政治・経済は、中港関係:大陸に政治的に従属し、民主化のペースを制限する一方、経済面での大陸との融合を急速に進める、経済:小さな政府を原則とし、金融・不動産を中心とした発展を目指す、政治:制限選挙で過剰代表された財界寄りの親政府派と政府の同盟により安定統治を実現するという、三本の柱によって支えられていた。当初この三本の柱は、曾蔭権の統治をしっかりと支える安定した柱であった。中港融合はSARS不況後の香港経済を復活させ、市民はこれを好感した。政府の支持率も非常に高かった。

しかし、「三本の柱」は、最近になっていずれも大きく動揺している。中港融合については、大陸妊婦の香港での出産や、観光客の買い占めにより、産科病床不足・インフレなどの問題が引き起こされ、融合の進展はむしろ香港市民の生活の質の低下の原因と見られるようになり、「中港矛盾」と呼ばれる香港市民と大陸住民の心理的な対立を招いた。経済においては、金融・不動産業界の肥大の一方、他の産業の振興は進まず、「地産覇権」と呼ばれる不動産業者の専横が批判された。不動産価格の暴騰は、特に若者が家を持つチャンスを奪うとして問題視されるようになった。このような社会・経済情勢を受け、政治においては政府の支持率は低迷し、天安門事件追悼集会の参加者数が年々増加するなど、中国と香港の民主化を求める世論が高まっている。中央政府はすでに2017年の行政長官普通選挙・2020年の立法会全面普通選挙を可とする決定をなしており、制限選挙に頼る政府の安定の先行きも怪しくなっている。

そういう中で、唐英年は若者を「なぜ自分が李嘉誠になれないのか反省せよ」と説教したり、自宅を不法に増築したりして、支持を失っていった。これらは些細なことにも見えるが、富豪の子息という特権階級の代表人物である唐英年による、現在の香港の主たる社会問題である若者問題・不動産問題に関連するスキャ

ンダルであったがために、巨大な反発を呼んだのである。庶民出身の梁振英はこれに対し、安価な公共住宅の提供などを主張し、市民生活に配慮するイメージを積極的な言論活動でアピールし、徐々に支持を得ていった。

選挙結果において、スキャンダル合戦と中央政府の介入は表面的現象に過ぎない。現在の香港が抱える構造的な急激な悪化が、大逆転を呼んだと言えるのである。

(4) 梁振英の統治は安定するか



梁振英と何俊仁の横断幕 (2012.3.23香港島ミッドレベル)

このように、香港の社会情勢が不穏であるからこそ、梁振英が唐英年につけている余地ができ、「奇跡の逆転勝利」が可能となったと言える。しかし、一旦当選した現在、梁振英はこれらの課題を引き継ぐこととなり、前途は多難である。

本稿の切は梁振英の就任前の6月であり、現時点では梁振英は曾蔭権の政府運営の妨害にならないよう、表立った発言や活動を最低限に抑えているが、就任後はすぐに、動揺している上記の「三本の柱」への対策を求められる。中港関係においては大陸妊婦の香港での出産の規制など「融合」政策の調整が、経済の面では住宅難やインフレへの対策、政治については普通選挙のアレンジが最大の課題である。

しかし、これらの問題の解決は大きなリスクも伴う。中港融合のペースを緩めれば、香港経済の最大の活力源が絶たれ、景気に大きく影響しかねない。そうなれば不動産高騰は一転してバブルの崩壊となり、より深刻な政治問題を生む恐れがある。折しも世界経済の情勢は欧・米・中とも極めて不穏である。こうした条件は、返還バブルから急転直下アジア金融危機の大不況に突き落とされた、董建華行政長官の時代によく似ている。

同時に、香港政治の「勢力地図」が、今まさに大きく書き換えられようとしており、事態をいっそう複雑にしている。制限選挙で守られ、政治の主役を務めてきた香港財界が政治力を失い、政治情勢は混沌化を避けがたい。そのような新しい情勢下での政治の安定、特に民主化の進展のためには、梁振英や中央政府は民主派とも一定の関係を築く必要がある。

香港政治はこれまでの常識が通じない時代を迎えようとしているようである。筆者も今後5年間の香港政治を、引き続き注意深く見守ってゆきたい。

香港対日大型プロモーション “think GLOBAL think HONG KONG” ~ 香港：国際化へのパートナー ~

香港貿易発展局

香港貿易発展局は、2012年5月15日（火）に東京（ホテルニューオータニ）、同17日（木）に大阪（帝国ホテル）にて、香港特別行政区政府高官来日記念シンポジウム「"think GLOBAL, think HONG KONG (TGTHK)"（国際化へのパートナー：香港）」を開催いたしました。この20年でNIEsの一端から中国における世界市場への玄関口として大きく発展した香港の新たな機能を日本で大きく発信する目的で開催され、香港から130名以上に及ぶ政府官僚とビジネス・リーダーが来日しました。



東京・大阪シンポジウムを合わせ3,000人以上が参加

東京・大阪シンポジウム

東京および大阪で開催された本イベントには、日本を代表する政・官・財界の代表者及び香港から参加したサービス・プロバイダーなど、合計3,000人以上が両シンポジウム・分科会および東京シンポジウム後に新高輪プリンスホテルで開催された香港ディナーに参加しました。

TGTHKミッション団を率いた香港特別行政区政府のグレゴリー・ソー商務経済発展長官は、開会に当たり、「当シンポジウムは、香港と日本の絆を更に深めることを目的として開催され、中国市場、そしてアジア諸国、世界へと事業拡大を検討する日本企業向けに国際化へのパートナーとしての香港の役割について包括的に紹介したいと思います」と述べ、日本企業の香港進出を促しました。

日本の官界も香港のイニシアティブを歓迎、大阪会場では、基調講演を行った松井一郎大阪府知事が、「約20年間に亘って停滞している大阪経済を活性化するために、国際経済の中心地としての香港の潜在力を是非役立てたいと望んでいます。」と述べました。

更には、「香港と大阪は互いに共通点の多い都市であると言えますが、香港は経済規模も大きく、国際金融センターとして抜きん出た存在です。大阪市としても、関西地区の経済的発展に向け、香港の持つ強みを大いに活用したいと考えています。」とも述べ、香港との経済協力を意欲を示しました。



香港の優位性について語るグレゴリー・ソー商務経済発展長官

アジアでのビジネス

東京と大阪のシンポジウムでは、最新の市場情報に加え、日本企業がアジア、特に中国本土でビジネスを行う際に香港とどう連携するかなどについて、実践的且つ有用な情報を提供するテーマ別分科会も開催されました。

香港貿易発展局のフレッド・ラム総裁は、「香港は、デザインやクリエイティブ産業をはじめ、技術系スペシャリスト、金融サービス、その他中国本土市場に興味を持つ企業に対し、ビジネスの国際化に当たっての素晴らしいパートナーとなれるものと確信しています。」とコメント、日港間の経済交流促進を後押しすることを表明しました。

テーマ別分科会では、消費者向け商品のブラン

ド戦略、デジタル・コンテンツの制作・配給、環境保護技術などの製造技術におけるパートナーシップの機会、本土珠江デルタ地域における事業立ち上げ、本土で事業展開する際の法律上の専門的アドバイス、香港における人民元ビジネス拡大の機会などのトピックが取り上げられました。

人民元プラットフォーム

グレゴリー・ソー商務経済発展長官は、世界最大のオフショア人民元金融センターである香港においては、日本の銀行支店や関連金融子会社を含む合計187の金融機関が人民元決済プラットフォームを活用していることに触れ、「香港の効率的で信頼のおける金融プラットフォームは、日本の企業が中国本土のビジネス・パートナーとの貿易決済を人民元建てで行う際に理想的なサポートを提供することができます。」と述べています。

香港パートナーとの提携

香港政府統計処の発表によると、香港を中国やアジアの地域統括本部として活用している日本の企業数が増加しており、本年度は昨年比で6%増となる約1,150の日本企業が、香港に事業拠点を設立しています。また、そのうち650社は香港を地域統括拠点と位置づけています。

日本貿易振興機構（ジェトロ）の最近の調査によると、日本の中小企業の70%以上が海外への事業拡大を希望、そのうち半数は3年以内に輸出の拡大を計画しており、約69%の企業が、中国を最大の輸出仕向地として考えています。また、近年日本の海外投資フローは急激な伸びを見せており、2011年には前年比で約2倍に相当する1,157億米ドルが海外投資に向けられました。

TGTHK開催期間中、来日した香港の金融、法人設立、会計、法律セクターの専門サービス・プロバイダーが無料のビジネス相談を参加者に提供しました。東京・大阪両会場で開催されたビジネス・マッチング・セッションでは、日本企業との商談案件



約700名が出席した香港ディナー（於：新高輪プリンスホテル「飛天の間」）



ビジネスマッチングでも活発なやりとり

数が470を超えるなど関心の高さが窺えました。特に中小企業基盤整備機構との共催による東北被災地域の輸出振興・産業復興に焦点を当てた商談会では、東日本大震災被災地域から15社が参加し、来日香港企業と活発な商談を行いました。

シンポジウムに登壇した柳澤光美経済産業副大臣は日本政府を代表して、「我国の中小企業は、香港が今後とも国際化のパートナー、そして国際市場へのゲートウェイであり続けることを期待しています。」と説明。香港貿易発展局のフレッド・ラム総裁は、両地域経済が互いに協力し合うパートナーシップの推進について、製品、サービス、ビジネス・アイデアの種類に拘らず、日本企業にとって香港こそが理想的なパートナーであることを強調、パートナーシップを組むことで、双方が恩恵を受けることができると述べました。

飛龍 No.71 2012年8月 発行 (禁無断転載)

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901 FAX(03)5210-5860

- NPO法人日本香港協会(東京)
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話(03)5210-5870
- 関西日本香港協会
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030
- 中京日本香港協会
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 T H 錦ビル8階
株式会社喜商内 電話 050 3620-2517
- 九州日本香港協会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル
(社)福岡県中小企業経営者協会内 電話(092)451-8593
- 山形日本香港協会
〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110
- 北海道日本香港協会
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内 電話(011)261-4288
- 宮城日本香港協会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話(022)212-5552
- 沖縄日本香港協会
〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話(098)868-3758
- 広島日本香港協会
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内
電話 082 248-1400

URL <http://www.jhks.gr.jp>



70年代の香港とは変わったなあ！ベスト3

日本香港協会 広報委員 関 達夫

76～78年、中学2・3年の間滞在し、香港を「第2の故郷」と思っている私は、帰国後も何度か訪れていましたが、近年すっかりご無沙汰しており、昨年11月久しぶりに訪れました。そこでその際に「70年代と変わったなあ！」と感じたベスト3をご紹介します。

第3位 新界のあちこちに巨大ニュータウンが！

70年代の新界地区は、荃灣や觀塘など一部地域で工業が発達していたほかは小さな田舎町と田園風景しかなかったエリアですが、そこかしこに巨大なニュータウンが出現していました。

ちなみに、今では新界地区に住む日本人もかなり多いようですが、当時は香港島8割、九龍2割で新界は皆無という感じでした。深圳にも近く、鉄道網の発達により九龍や香港島にも出やすくなった影響なのでしょう。その発展ぶりには本当にビックリです。

第2位 運賃が10倍に！

76年当時、タクシーの初乗りは2HKドル、路線バスは30セント～1HKドル程度が普通で、感覚的に1HKドル＝日本の100円という感じでした(当時の実際のレートは1HKドル＝日本の60円程度)。それ

が今はタクシーの初乗りが20HKドル、路線バスも4～10HKドル。日本円に換算すると相変わらず安いことがわかりますが、いまだに一瞬ギョッとしてみます。

第1位 オクトパスで「両替マック」が不要に！

バスはお釣りが出ませんでしたので、「香港島の路線バス乗りつぶし」をライフワークにしていた当時の私は小銭をつくるために毎日マックに入ったものです。それが今はオクトパスカード1枚でバスでも電車でも乗れてしまいます。ついでに言えばバスの冷房。70年代には考えられなかったことなのでまさに隔世の感です。

という具合に「変わったなあ！」と感じた点はたくさんありましたが、あのベタとした空気も、街や人々の様子も、美味しい料理も、みんな私が知っている香港そのもので、中国返還で様変わりしているのでは？と危惧していた私はとてもホッとしました。

香港はこれからも猛烈なスピードで変化を続けていくのですが、いつまでも「古き良き時代」の味わいも残し、再度訪れたときに「お帰りなさい！」と温かく迎えてほしいものです。

香港の美しい自然

日本香港協会会員 コリンズ 咲子



観光で香港に行く人のほとんどは、100万ドルの夜景に歓声をあげ、美味しい中華料理を堪能し、買い物を楽しんで帰国します。香港には美しい自然が豊かにあるというのに見ずに帰る人が多いのは残念です。

私は宝馬山と言う山の方に住んでいました。樹木や花が一年中身近にありました。一番多かったのはアカシアで、春先には黄色くて丸い小さな花が咲きそこら中が淡い香りにつつまれます。特に夜間の湿気がまだ残っている朝などはより香しく匂います。そして六月頃には鳳凰木(和名・火炎樹)の花があちこちで燃えているように咲きはじめます。この木は、枝ぶりが鳳の鳥が翼を広げて飛んでいるように見えるのです。香港には、もうひとつ紛らわしいのですが、火焰木と言う名の木があります。この木には朱色のこんもりした花が咲き、まるで大きなチューリップのように見えるので英名はアフリカン・チューリップ・ツリーと言われていました。

近所のマンションの庭からは甘く濃厚な香りが漂ってきます。クチナシにしては花が大きい過ぎるので何かと思いましたが、やはりそれはクチナシでした。暖かい香港では花の色は鮮やかで、香



火焰木



火炎樹

「香港の自然を訪ねて」
園田幸朗著

り豊かで大きく育つようです。誰かが捨てたらしいポインセチアが根付き群生した場所があったのですが、私の背丈ほどもありました。これも暖かさが原因でしょうか。樹木や花が多いというのは木の葉や花の蜜が豊富ということで鳥も多く見られます。美しい黄色の冠を頭にのせた白いオウムをよく見ました。美しい姿なのに信じられない悪声ですぐ見つけられました。この悪声に対し、美しい声のうぐいすも楽しめました。

香港はいつ行ってもこのような美しい自然に接することができます。海も山もきれいです。にぎやかな街中だけではなく、こういう美しい自然に接する観光客が増えれば、うれしいと思います。

NATIONAL

日本香港協会 全国連合会

CMMS第9期修了式、第10期開講のご案内

日本香港協会全国連合会事務局

昨年9月より約10か月にわたり開催された、第9期チャイニーズ・マネージメント&マーケティング・スクール(CMMS)は、6月7日に無事修了式を迎えました。

今期のCMMSは東京と大阪の二会場をテレビ会議システムで結んでの同時中継で行われました。これまでの理論・実践編に新たに語学編がスタートしたこともあり、過去最高の受講者数を誇っての授業となりました。また、今期理論・実践編では受講者総数50名のうち全体の66%にあたる33名の方が、また語学編においては受講者総数13名のうち、約92%にもあたる12名の方が、全講義に対し7割の出席率をもって無事修了と認定されました。さらには10名の方が皆勤賞を受賞されました。忙しい仕事の合間を縫っての本講座全30講座-毎週木曜日(語学編は全15講座を隔週火曜日)午後7時から9時までの2時間長にわたる授業を、10ヶ月間受けられた受講生並々ならぬ努力を伺うことができます。

修了式には二松学舎大学渡辺和則学長、牧角悦子二松学舎大学講師、賤前宏日本香港協会全国連合会名誉会長、原田光夫NPO日本香港協会理事長、古田茂美全国連合会事務局局長をはじめ、モデレーターの藤澤慶彦氏、藤原弘氏、増田智子氏より修了生へのお言葉を頂いた他、賤前名誉会長から修了証書と記念品が授与されました。また、式の後半には修了生全員が、それぞれ約1分のスピーチで、この一年間の授業について思い思いの心情を語りました。

今期は東レ、三井物産、蝶理、クラレトレーディング、塩野義製薬、岡本無線、新東工業、ユニオンケミカル、アルインコ、ユーハイム、IT系企業(サイエンスネット等)、不動産関係、弁護士、公認会計士(PwC等)、税理士等の方々を受講されました。第10期となる来期CMMSはいよいよ9月6日開講予定です。



第9期CMMS修了生の皆様(関西会場)

次回も今期同様会場が東京・大阪となり、双方向テレビ会議システムによる同時中継での講義となります。

カリキュラム面では9期同様、理論編、実践編に加え、語学編の授業が継続されます。CMMS本講座となる理論・実践編の講義は、理論編(15回)実践編(15回)合計30講義で構成され、その目標は、華人企業経営の要諦とされる、四つのパラダイム(国情、儒教、兵法、華人ネットワーク)について、理論と実践の両面から学び、中国・華人圏経済社会の特質を理解し、日本的経営の独自優位性を再確認することで、両者を融合する中国・アジア事業経営の新たなパラダイムの構築に資し、強靱で柔軟な思考が可能な人材を育成するところにあります。

語学編ではビジネス中国語として、中国企業や政府機関との交渉時に役立つ、商談を円滑化し、相手との距離感を縮めるのに便利な会話の秘訣を、中国古典思想や文学の中からご紹介すべく、文学編、思想編などに分け、文学編では「論語」、「孫子」、「三国志」等、思想編では「老子」、「莊子」、「韓非子」等の教材を用いて中国文化思想にふれて頂く予定です。ぜひ皆様のお申し込みをお待ちいたしております。

2012年香港フォーラムのご案内

今年で開催第13回目を迎える「香港フォーラム」は、2012年12月4日(火)～5日(水)の二日間に亘り、香港のコンベンションセンターにて開催されることになりました。

香港フォーラムとは、世界24カ国/地域に跨る33の香港ビジネス協会から構成される香港ビジネス協会世界連盟(Federation of Hongkong Business Associations Worldwide)の全メンバーが一堂に会する年1回の世界会議です。香港そして香港を通じての中国本土ひいてはアジア諸国への熱い想いを胸に秘めた方々の結集です。また、「香港フォーラム」に先立ちまして、毎年恒例の「全国協会交流会」を開催致します。香港での年に一度の交流会には、日本全国から

毎年100名以上の会員様にご参加いただいております。是非皆様方のご参加をお待ちしております。

イベントの詳細、昨年2012年フォーラムのご案内については下記のURLよりご覧いただけます。

<http://www.hkederation.org.hk/forum/forum2012/main/index.asp>

<問い合わせ先>

日本香港協会 全国連合会(担当:陳・室田)

TEL:03-5210-5901

FAX:03-5210-5860

Email:national@jhks.gr.jp

TOKYO

NPO法人日本香港協会

第19回横浜ドラゴンボートレース2012に参加しました

日本香港協会広報副委員長 本田茂樹

横浜ドラゴンボートレース協議会(横浜市、横浜中華街発展会協同組合、日本香港協会、横浜青年会議所、横浜国際ドラゴンボートレース協会)主催で1994年に横浜開港祭のマリンイベントとして初めて開催された横浜ボートレースは今年で早くも第19回目を迎えました。

ドラゴンボートの起源は、NPO法人横浜国際ドラゴンボート協会によると、紀元前278年戦国時代の中国、「楚」の国に遡る。当時の腐敗政治家に怒り、その後逆に妬まれて失脚、入水自殺した政治家、詩人であった屈原の命日に彼を偲ぶ龍舟競漕が行われ、およそ2300年の時を経て1976年の香港国際龍舟祭りで競技化され、その後世界に広がった競技だということです。



力走する「飛龍」(3レーン)



競技を応援する人々

今年も第19回目を迎える横浜山下公園で2週4日(5月26日(土)27日(日)、6月2日(土)3日(日))にわたり「サタデーチャレンジカップ」、「JBグループカップ」、「コカ・コーラ センtralジャパンカップ」、「香港カップ」そして「インターナショナルチャンピオンカップ」と5つの競技が開催され、総勢209チームが参加しました。

さていよいよ日本香港協会のチームが参加する「香港カップ」開催日の6月3日、日曜日。前日の予報では雨、曇りでしたが、当日はお祭り気分の中、爽やかなドラゴンボート日和となりました。

日本香港協会は、ボートレースを後援する香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部(ETO)、並びに香港政府観光局(HKTB)のブースの脇に垂れ幕を張り、あたかもその周辺は香港かと香港ムード一杯でした。日本香港協会は、6月3日(日)に開催された「香港カップ」に「飛龍」、「飲茶」、「九龍」の3艇で参加しました。競技には70名を超える参加者、会員が山下公園に集まり、暑い日差しの中、皆で出場艇を応援しました。

ドラゴンボートレースは、国際競技規定に則り、全長11mのボートに20人が乗り込み、赤灯台のスタートラインから氷川丸に向かって260m直進レース、全力疾走「1分30秒のドラマ」です。

「香港カップ」は総勢21チームが参加出場しましたが、3艇を擁する日本香港協会チームは1艇2レースの競技にて各チーム健闘し、予選レースでは、「九龍」は1位、「飛龍」は2位の好成績でした。「九龍」が予選で1位となった時には、皆興奮状態でした。しかし上には上がいるもので、総合順位、成績は、惜しくも「飛龍」8位1分31秒36、「九龍」9位1分31秒71、「飲茶」16位1分56秒48に終わりました。大会本部の「日本香港協会の…」のマイクアナウンスが会場に響き渡り、日本香港協会の宣伝にもなったようです。

昨年は、「九龍」9位(1分30秒14)、「飲茶」10位(1分32秒93)、「飛龍」12位(1分34秒37)の成績。一昨年は、「九龍」の13位が最高。やはり「1分30秒のドラマ」です。優勝チームは1分15秒台のレベルでした。持続力、体力が勝負の世界。1分30秒を切るのが今後の課題となっていますが、皆で力を合わせてゴール目指して進むことに意義あり、参加者からは「楽しかった」、「来年も参加したい」、「やれば出来る」との声が上がり、来年の再会を約束しました。船首の太鼓の音に合わせてオールを漕ぐタイミング、漕ぎながら水をかき出す手順等のコツと、やはり持続する体力が勝負のようです。

また来年の日本香港協会チームの更なる飛躍にご期待ください。

来年より参加を早めに募りますので、会員の方もどしどし参加願います。

七夕パーティー2012

猛暑の続く中、7月21日(土)に銀座プロッサムにおいて恒例七夕パーティーが催されました。第一部のコンサートでは「夏の思い出」から「蝶々夫人」まで...。吉田彩さんのピアノ伴奏による、奈良原蘭里さんの澄んだソプラノの世界に酔いしれました。第二部は美味しいお料理をいただきながら、お楽しみ「ラッキードロ〜」へ!特賞はキャセイパシフィック航空ご提供「アジアマイル 10万マイル」です。今回は笹川雅子さんが見事、幸運の矢を射止められ、日本支社長のクラレンス・タイ氏より目録を贈られました。よい旅を、そして旅のご報告をお待ちしています。最後になりましたが、賞品をご提供いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



左: 奈良原蘭里さん(ソプラノ歌手) 右: 笹川雅子さん(特賞当選者)

KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会事務局

「日中文化・経済交流と最新の上海事情」

文化部では、去る4月13日に香港貿易発展局大阪事務所セミナー室に於いてセミナーを開催、27名が参加しました。

講師の日本中華文学芸術家連合会の理事を務める揚琴奏者・歌手の周琪(シューキ)氏は、20年来日本をベースにTV・ラジオ出演や日本各地でのコンサート、文化交流イベント、講演を通じて日中文化交流の架け橋として活動を続けておられます。また、上海で宅配便会社や和食レストラン(「柚子」中国国内12店)を起業し事業家としても成功されています。上海の恵まれた家庭に生まれ、子供時代には上海少年少女芸術団のスターとして全国公演を経験し、また両親が文化大革命で迫害されるという苦境の時代を経て、いつも前向きな両親に励まされ自分の夢を実現してきた自身の生き方を興味深く話され、日本と中国が持つ良いものを伝えていく使命感を持っていること、日本企業にとって上海には種々なビジネスチャンスがあることを具体的に話されました。苦境の中で孤独感を味わったことや、種々な局面で成功したことが現在の幸せに繋がっていると話された周琪氏に、絶えず真摯に人生と向き合い強い意志と実践力で夢にチャレンジすることの大切さを学んだセミナーでした。

劇団四季「サウンド・オブ・ミュージック」観劇会

関西日本香港協会では、5月11日に文化部主催の会員懇親行事として観劇会を実施しました。映画で懐かしい感動的な場面と素晴らしい音楽を堪能し、20名の参加者の皆さんから「大変良かった」、「感動した」と感謝の言葉をたくさんいただいた有意義なイベントになりました。

CHUKYO

中京日本香港協会

昇龍道にちなんでの会員投稿

中京日本香港協会 副会長・事務局長 佐藤亮一

今回は、中京日本香港協会の会員で、高山にて観光施設を営んでいらっしゃる倉坪信裕氏に香港人に人気ある観光地「高山」について、執筆を依頼しました。

2012年は龍が天に「起つ年」、縁起の良い龍は古来中国から日本に伝わったと聞きますが香港、中国等アジアの方々を有数の観光資源を持つ中部・北陸地域への誘客を促進するため、中京日本香港協会春節セミナーにてご紹介がございました。「昇龍道(ドラゴンルート)」プロジェクトがスタート致しました。当地域をまずは知って頂き、そして訪れてみたいと思っただけこの昇龍道には幸、賢、優、楽、健、という五つの独特のテーマを持たせてあります。その中の「楽」を以って「幸運」と題し昇る龍の胸の部分に位置する所に「飛騨高山」があります。ここは日本の原風景が残る小京都、多彩な「魅力」が点在しています。海外では、ガイドブック「ロンリープラネット」によって英語圏からの来訪者増に貢献した事を踏まえ、飛騨高山へ来訪される外国人の中でも実に47%を占める香港、中国、台湾の観光客にアピールするには龍に見立てた「パワースポット巡り」は極めて良材になり得ます。外国人観光客への「おもてなし」の一環として、より楽しく快適に旅行し高山の魅力をより深く知って頂けるように外国語による観光ガイドを行う取り組みも始まりました。また、龍には水をも司る「力」あり、高山には美味なる「水」が在り、自

協会会員が香港でジャズ・ライブ

会員でジャズ歌手の青紀ひかりさんが5月19日に香港の歴史的文化施設「The Fringe Club」でライブ出演されました。今回のイベントには、当協会理事・文化部長の田島等氏が積極的に支援され、東京と大阪のファン30名等と一緒に参加、香港政府観光局・香港貿易発展局・関西日本香港協会・関西和僑会が後援、理事企業のキャセイパシフィック航空が協力団体として応援しました。

ライブ当日は2ステージとも満席の大入りで、アンコールでテレサ・テンが歌って大流行した「月亮代表我的心」を中国語で歌うと香港の皆さんが大喜びで会場が最高に盛り上がりました。ニューヨークでジャズの修行をされた青紀ひかりさんが流暢な英語で参加者と交流され、大成功の文化交流イベントでした。

「CMMSから学ぶ - 10周年を迎える華人経営研究 -」

2003年に関西日本香港協会主催によりスタートした画期的な教育事業「チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS)」が今年で10周年を迎えるに当たり、昼食セミナーを5月29日にレストラン「Lawry's The Prime Rib, Osaka」で実施し、20名が参加されました。おいしい食事で会員同士の交流を図り、第1期よりCMMSの企画・運営に携わってこられた当協会理事・華人経済経営研究部部長の斎藤治氏(読売新聞大阪本社論説・調査室主任研究員)がCMMSの成果、なぜCMMSが必要か、CMMS講義内容の骨格、CMMSを通じたネットワークなどに関しわかりやすく解説しました。

飛騨高山 郷倉

〒506-0031 岐阜県高山市一色町3-2025-2(飛騨の里横)
電話 0577-33-3317
支配人 倉坪信裕



http://www.rurubu.com/sight/detail.aspx?BookID=A3101190

KYUSHU

九州日本香港協会

平成24年度 通常総会・講演会・交流会開催

九州日本香港協会 事務局

九州日本香港協会では去る7月2日(月)にホテル日航福岡「志賀の間」において平成24年度通常総会・講演会・交流会を開催しました。

通常総会に先立ち、日本の次世代リーダー養成塾事務局長の加藤暁子氏による「最近の香港の政治・経済情勢」との

題目で講演会が行われました。講演では、今年が1997年の香港返還から15周年ということもあり、まず香港返還の翌日にタイバーツから始まったアジア通貨危機や2008年のリーマンショックに触れ、危機発生後10年程度は回復困難と言われながらも、翌年には輸出産業を中心にプラス成長に回復した

ことなど、香港経済の激動の15年を振り返られました。また、人口700万人の香港に中国本土から年間4200万人の旅行者を受け入れ、そのスタイルも以前の買い物や食事を楽しむだけのものから、山歩きや水源地などを訪れるものも増えてきているなど、中国の経済成長を巧みに活用しながらも更なる成長を追求する香港の現状についても説明されました。今後も一国二制度のもと、その経済自由度は変わらず、中国の中でも経済規模、人口の大きい広東省を後ろに控えていることから、香港は持続的な経済成長が見込めると述べられました。一方で、日本は内向的な競争ばかりで疲弊してしまい、国際競争力が低下していることを指摘され、香港に見習い、世界の常識にあった政策や商品開発等を行っていく必要があるとのお話がありました。

次に通常総会が開催され、石原会長より、日本は香港をはじめとしてアジアの国々から学ぶべき点は非常に多く、中でも香港の税制に触れ、日本と違い法人税が非常に低いものの税収は豊富で、国の経済規模こそ違いますが、香港の国家財政は効率的に豊かに運営されていると述べられました。このほか、香港の政策面での先見性にも触れ、20年も前に国際的な港や空港をいち早く作り、ヒト・モノ・カネを香港に呼び込む体制を



石原進会長



加藤暁子氏



古田茂美氏

構築したことを評価されました。現在でも、香港は中国大陸と直結する新幹線を走らせる計画があり、更なる成長への土台作りを進めている点、一方で、日本は政策の違いで、地方に空港を数多く建設し、グローバル化に出遅れてしまっており、このままでは日本は「失われた30年」になりかねないこと、そして、九州にある元気な企業の話に触れ、日本の企業も外国人留学生を上手に活用しながら海外進出を図るなど、様々な工夫を凝らしながら世界と戦っていく必要があるとの挨拶がありました。

議事においては、辛亥革命100周年記念フォーラム共催などの平成23年度の事業報告や、香港フォーラム参加、春節パーティー開催などの平成24年度事業計画、役員を選任について等の審議を行い、いずれも満場一致で可決され、総会は滞りなく終了することができました。

講演会、通常総会の後に行われた交流会では、石原会長より日本が失われた30年にならないためには元気な女性の活用が不可欠であることのご挨拶があったあと、来賓としてご参加いただいた香港貿易発展局の古田日本首席代表より香港における女性の活躍についてのお話があり、日本人女性や、アジアに近く情報に敏感な九州の役割が今後日本の経済再生に不可欠になるとのご挨拶がありました。並田名誉顧問の乾杯の音頭で歓談が始まり、和やかな雰囲気での会食となり、会員同士の交流が深められました。最後に佐々木副会長の閉会の挨拶で楽しかった交流会を終了しました。

平成21年7月に福岡日本香港協会と北九州日本香港協会が統合して、九州日本香港協会が発足してから3回目となる通常総会を無事終えることができました。九州日本香港協会は今後もフォーラム、講演会、パーティー等の活動を積極的に行いながら、会員数の増強に努めていく所存でありますので、よろしくお願いたします。



交流会の様子

YAMAGATA

山形日本香港協会

私にとっての香港・マカオ

山形日本香港協会 渡辺尚美

私は現在、マカオの日系旅行会社で現地ツアーガイドをしています。日本から来るお客様を案内する仕事で、日本と同じようなサービスをお客様に提供できるよう、日々心がけています。マカオは、2005年にユネスコ世界遺産に30箇所も登録されてからは、日本人の観光客も増え続け、また2006年にはラスベガスのカジノの総売り上げを超えたという事でも、注目を浴びている街です。以前は香港・マカオという旅のセットで出ていましたが、マカオ単独でも徐々に人気が出ています。近年、ポルトガル料理やスパを楽しみに来る女性同士の観光客も増えてきたことでもわかるよう、カジノに興味の無い方も十分に楽しめる観光地です。マカオ・香港間は高速船が24時間出ていて約1時間の距離なのですが、今後は、大橋が架かる予定なので、ますます便利になることでしょう。

今でも休日には香港に遊びに行っていますが、マカオに来る前は学生として香港に3年間住んでいました。私が初めて香港を訪れたのは、2001年の冬です。幼い頃から日本舞踊をしており、その日香交流ということで香港のニューイヤーパレードに参加しました。当時私は山形で高校生活を送っていたのですが、そのパワフルさに仰天し、洗練された国際的な街並みに感動したことを覚えています。その時の私は、まさか自分が香港に住むことになるなんて思ってもいませんでしたが、山形日本香港協会事務局をしていた父からたびたび香港の話が聞くようになり、次第に中国に興味が出てきました。高校卒業後は上海の大学へ留学し、卒業後は両親の強いすすめもあり、香港へ行くことを決意し、香港中文大學で広東語を学びながら、言語はもちろん、数多くの世界各国の友人を通じ、色々な事を学びました。

私にとっての香港は、グルメの街、ショッピングの街、ビジネスの街、昔ながらの中国、さまざまな顔を持っている場所です。なんといっても百万ドルと言われる夜景は代表格です。20時過ぎにはレーザー光線が夜空を駆け巡り、ビルや看板の照明が我こそはと主張する様子は、ただただ「凄い」の一言です。食においても、香港の中華料理は日本人の口にとっても合いますし、全世界の美味しい料理を食べることができ、一度訪れたらまた来たくなる、そんな魅力に溢れています。そんな私も、知らず知らずのうちに香港の魔力にとりつかれ、住んでいました。

すでに山形を離れて10年が経ちますが、心はやはり日本人です。海外に出たことで、両親のありがたさはもちろん、日本という国がどんなに素晴らしい国であるかがわかり、どんなにか日本人でよかった！と思っ



香港中文大学のクラスメイト

たことでしょう。友人たちもこのことは口をそろえて言っていて、海外生活を体験した日本人なら必ず思うことではないでしょうか。一方、良い所ばかりではなく、悪い所も見えてきます。私自身、サービス業に携わっているのでよく感じるがあります。それは、日本のサービスは世界一だという事に気がついていない日本人、あたりまえのことを幸せと思わない日本人。それに気づく事によって、自分も周りの人も、幸福度が増していく気がします。「謙虚」や「したたか」という言葉は、日本人を表現する上で、また、日本人の問題点を示す点で、ぴったりの言葉だと思います。「謙虚」それは風情があって重んじられることですが、日本人はもっともっと前に「したたか」に出ていくべきだと思います。通用するものはたくさんあるのですから。世界との交流をもっと深めていき、みんなが肉食系でいなければ生き残っていけないような気がしてなりません。私もその中のひとりになれたらいいな、飛ぶ龍のごとく昇って行けたらいいなと思います。

香港を日本人の皆さんに身近に感じてもらえるように、地方などからのチャーター便が増えると足を運びやすくなるのにとおもいます。ちなみに最寄の仙台空港からの便は、廃止・再開を繰り返しています。私は山形出身ですが、水、空気、米、果物、山海の幸、自然、人柄。どれをとっても最高級のものばかりです。香港の方々にも、私が生まれ育った素晴らしい山形に遊びに来て欲しいです。



マカオタワーからの初ダイブ

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

香港と北海道の交流について

北海道日本香港協会 副会長 安齋 勲



安齋副会長

1. 香港と私

私は元々船乗りで、香港には何度か寄港したことがありました。当時の香港は水不足が深刻で、船に給水するのではなく、船から陸に給水してあげた記憶があります。その後、香港の船会社からお誘いがあり、1972年から1985年までの13年間香港で過ごしました。香港の会社にはキャプテンとして入りましたので、最初のうちは現地の従業員にとって日本人の上司は「招かざる客」のようでした。ある時、仕事を期日に終わらせるために人夫と一緒に夜中まで働いて仕事を終わらせたことがあり、それをきっかけに自分たちの仲間として認められたように思います。当時の仲間に出ると、今でも「キャプテン・アンザイ」と呼んでくれます。よき時代の香港でした。日本人だというだけで信頼を得ることができました。今活動しているコーラスグループ「ダンディー・フォー」も香港つながりが元になっています。本当に香港とはご縁があると感じています。



「ダンディー・フォー」香港の経済フォーラムにて

私が香港に駐在を始めた1972年に香港島と九龍半島を結ぶ海底自動車トンネルが開通しました。トンネルはパイプを海底に設置する形でしたので、トンネルの上に碇を下ろさないように気をつけていました。トンネルの通行料は片道5ドルと高めでしたが、わずか1年半で建設費を回収するほど多くの需要がありました。私の大きな失敗は広東語を真剣に勉強しなかった

ことです。船会社の仕事は文書のやり取りは全て英語でしたから広東語が出来なくても不自由はなかったのですが、やはりその土地の言葉を覚えるべきだったと後になって強く感じました。これから世界に出て行く皆さんにはぜひ行った土地の言葉を勉強されることをアドバイスしたいと思います。

プロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎氏も、冒険をさせることが教育だとおっしゃっていますが、若い方々にはどんどん海外に出て行って欲しいと思います。

「Seeing is believing.」です。自分の目で見たものを信じていただきたいと思います。

2. 香港の魅力

香港の魅力は何と言っても「自由」と「自己責任」です。日本では政府が何をしてくれるかということに頼りがちですが、植民地時代を経た歴史のせいか香港の人々はとてもたくましいのです。よりよい条件を求めて会社を次々と変え、経験を積んで貪欲にキャリアアップを目指したり、おカネへの関心が高く、一般庶民も普通に株や金に投資をしています。他人と比較するのではなく、自分が儲かることにだけ興味があるので、他人への変なやっかみもありません。ビジネスに敏感な風土だからこそ、いつ訪れても活気があり、人々はエネルギーに満ち溢れています。一見ドライに見えますが、ひとたび打ち解けるといつまでも関係を大事にする温かさもあります。

3. 北海道と香港

北海道と香港の気候は補完関係にあります。北海道の過ごしやすい季節である4月から10月は、香港では雨が少なく、蒸し暑い時期にあたります。長い休暇を取る香港の人々が「北海道ハウス」を持ち、北海道のベストシーズンにロングステイを楽しんでもらえるような仕組みを考えていくことも必要でしょう。また、寒い冬には北海道の皆さんにも暖かい香港を楽しんでいただきたいと思います。

観光は相互理解の第一歩です。真の関係を築いていくためには、貿易まで含めたビジネスの面でパートナーシップを作っていく必要があると思います。

香港は札幌市とほぼ同じ面積で、700万人が住んでいます。但し、マーケットは700万人に限定されるものではありません。中国大陸や東南アジアへのゲートウェイの役割も持っていますし、何よりビジネススペースが浸透していますので、トラブルが少ないことも特徴です。

活気溢れる香港と北海道の交流を深めることが、香港に多くの友人を持ち、北海道日本香港協会の副会長をしている私の役割だと思っています。

MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会 事務局 武田 功

2012年度通常総会及び記念セミナーを開催しました



記念セミナーで講演する渡邊英明氏

去る5月29日(火)17:30からパレス平安6階「コーラルホール」におきまして、2012年度通常総会を開催致しました。来賓として香港貿易発展局・古田首席代表御臨席のもと、知事の代理として宮城県の千葉国際経済・交流課長、仙台市長代理として伊勢国際プロモーション室長にご出席頂き、62名(委任状出席を含む)の出席を得て行われました。会長挨拶、県知事、仙台市長の祝辞に続き、第1号議案「2011年度の事業報告並びに収支決算及び監査報告」、第2号議案「2012年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、第3号議案「役員改選」の3議案について満場一致で可決・承認されました。

続く記念セミナーにおいては、東日本旅客鉄道株式会社仙台駅長渡邊英明氏による「駅づくり、まちづくり」と題した講演がありました。同氏は、宮城県亶理町の出身、JR東日本の前身である日本国有鉄道に入社、2011年から仙台駅長として勤務されています。もう少し東部に予定されていた仙台駅が現在の場所に建設された経緯や今後の仙台駅東口の整備構想、そして東日本大震災当時の仙台駅の様子など、普段では見られない貴重な資料を、写真を交えて講演してくださいました。

終了後、隣の「ソレイユホール」に場所を変えての懇親会では、小野寺代表理事の挨拶、香港貿易発展局・古田首席代表の挨拶のあと、みやぎおかみ会副会長の緑水亭の若女将、高橋知子さんの乾杯で幕を開け、セミナーの渡邊講師も交えての懇談となりました。途中、アトラクションとして日本舞踊の披露や尺八の演奏もあり、参加した会員の皆様も楽しく懇談されておりました。

なお、古田代表からは、先日香港の商務長官が来日された折開催された東京の大シンポジウムの様子をDVDで紹介され、香港の経済力の大きさを改めて認識した次第です。

女性部会による香港文化教室を開催しました



お茶を味わう参加者風景

3月7日(水)パレスへいあんに於いて、23年度第2回目の香港文化教室を開催しました。総勢25名の参加があり、香港出身の荒川フェニー瑞玲さんを講師に、今回は開花茶の入れ方を学ぶとともに、入れたお茶を、春のお菓子、果物満載のタルトとともに味わいました。会場からは先生もたじじになるほどたくさんの質問があり、本場中国の開花茶を、中国茶器ともども味わうことができました。最後にその茶器をお土産にいただいて、「家庭でもやってみたい」などと参加者も喜んでおりました。

また、6月6日(水)仙台国際ホテルの中国料理店「翠林」に於いて、2012年度1回目の香港文化教室を開催しました。会場の都合で参加者を15名に限定しての開催、今回は中国料理を楽しむ会です。冒頭、みやぎ女将会の元副会長の湯ノ原ホテル女将、菅原賀寿美様からご挨拶をいただき、講師としては「宮城県卓越技能者」の認定を受けた仙台国際ホテルの中国料理長・羽田満氏をお招きしました。会食料理の中から海鮮春巻の作り方、具の作り方はもちろんですが、特に油が中までよく通るようにとふんわりと巻く、いわゆる「巻き方」も勉強しました。「宮城山海の幸オードブル」、「芝エビと空豆の翡翠炒め」、「海鮮春巻」、「宮城野ブークの上海風炒め」などの八種類、とてもおいしく、春巻きもパリッと舌触りも良く、参加者も口々に「おいしいね」と言いながら、満足そうに話をしていました。



熱心にメモをとる参加者

HIROSHIMA

広島日本香港協会

ビジネスパートナーとしての香港の再認識

広島日本香港協会 事務局 川北正明

大型シンポジウム「think GLOBAL think HONG KONG」 国際化へのパートナー：香港」への参加

5月15日に東京にて開催された上記の大型シンポジウムの内、「日本ブランド対中/アジア輸出」をテーマとする分科会に、当協会の深山英樹会長と共に参加させていただきました。

日本貿易振興機構の須藤徳之理事をモデレーターに、香港、中国のビジネスをリードする錚々たるパネリスト6人を揃え、パネルディスカッションが行なわれ、会場は名だたるビジネスの成功者の発言を聞き逃すまいと熱気に満ち溢れていました。



分科会でのパネリストの紹介

様々なご発言の中で特に印象に残ったのは、高級ファッションブランドやシティスーパー等を運営するフェニックスグループホールディングスのアンソニー・キョン社長の「香港は中国本土との古くからのビジネス経験があり、様々な失敗を糧にして今日のノウハウを獲得した。」とのご発言です。香港と中国本土のビジネスマンは、同じ中華系同士だから分かり合えるといった生易しいことではなく、香港には中国本土との、時に厳しいビジネス経験に裏打ちされた確かなノウハウがあることが再認識できました。

また、味千ラーメンを世界に展開する重光産業㈱の重光取締役の、味千ラーメンの香港進出時や中国本土でのフランチャイズ展開に際してのご体験に基づく「海外での成功の可否は、どのようなパートナーと出会えるかにかかっている」とのご発言は、今日のご成功と照らし合わせると、重みを持つお言葉でした。

WEマーケティンググループのビベカ・チャン会長からは、某ヘアケア商品の中国でのマーケティング手法の実例を挙げ、商品自体の品質もさることながら、中国の慣習や考え方を深く理解した上でのマーケティングが重要であることをご教授いただきました。

各パネリストが1~2時間の講師を十分務めることができるご経験をお持ちなだけに、もう少し時間があればと思わずにはおられない充実した分科会でした。

当日の夜は、600人以上を招待しての晩餐会が開催され、当協会からも深山会長をはじめ5名が招待を受け、参加いたしました。

趣向を凝らしたイベントに感動するだけでなく、同テーブルの他地域の香港協会役員の皆様と、香港との

ビジネスについて意見交換をする機会をいただきました。当協会は全国の香港協会の中で最も新しい団体であるだけに、他の協会様からの情報は、今後の運営のために大変参考になりました。

今回の一連のイベントへの参加により、中国へのビジネス展開において、香港は頼りになるパートナーであることを再認識することができました。

広島日本香港協会 2012年度通常総会の開催について

当協会の2012年度通常総会を、6月5日(火)広島市内にて開催いたしました。役員を選任、香港の食品関連企業の招聘・商談会を含む2012年度事業計画等の議案について審議が行なわれ、全議案とも承認されました。

総会の開催に合わせて、香港貿易発展局大阪事務所の伊東正裕所長と田中洋三次長にお願いいただき、伊東所長には、「一体化が進む珠江デルタ経済圏と香港の未来」と題したご講演をいただきました。



伊東所長によるご講演

伊東所長からは、2003年6月に香港・中国間で締結された経済貿易緊密化協定(CEPA)により、香港企業に内国民待遇が付与され、香港の中国ビジネスへのゲートウェイとしての役割が高まっていること、香港やマカオと珠江デルタ地域(PRD)は交通・通信インフラ等が整備されつつあり、一体的発展が推進されていること等について最新の情報をもとに語られました。一方で、香港と中国の緊密化により、香港が中国化するとの評価に対しては、中国政府が香港のビジネス経験を大陸に導入しようとしていることから、むしろ、「中国の香港化」が進行するとの考えを披露されました。香港や珠江デルタ地域の発展計画のダイナミズムに驚くとともに、ビジネスにどう生かしていくかを考えさせられる、刺激に満ちたご講演でした。

その後、伊東所長、田中次長には交流会にもご参加いただき、両氏と会員及び会員同士の情報交換が活発に行われ、有意義な会合となりました。

今後、会員の中から1社でも多く、香港貿易発展局の各種サービスを活用され、香港をパートナーとした事業拡大がなされることを期待しております。

OKINAWA

沖縄日本香港協会

アジア・フォーラム 2012 IN ハノイ 参加報告

沖縄日本香港協会 事務局



アジア・フォーラム会場

沖縄日本香港協会では、2012年5月25日(金)にベトナム ハノイ デーウホテルで開催されました、「アジア・フォーラム2012」に沖縄日本香港協会 國場幸一会長を先頭に計4名で参加致しました。

アジア・フォーラムは、シンガポール・タイ・マレーシア・ベトナムの香港協会が中心となり毎年開催されており、本年度はベトナムの香港協会が幹事となり開催されました。

ベトナム香港協会は、ホーチミンにありますが、今回ハノイにも事務所がハノイホテル内に開設されることとなり、併せてその開設祝賀会も行われました。

日本の小泉首相、中国の江沢民主席、ロシアのプーチン大統領など各国の首相クラスが訪れたハノイ・デーウホテルで、アオザイを着た受付スタッフのこやかな歓迎を受け会場に入ることができました。

冒頭、香港貿易発展局 南アジア・インド担当局長のロレッタ・ウォン氏の歓迎、主催者の挨拶があり、その後、ベトナム在住20年のアメリカ人で、インターナショナル・ファイナンス・コーポレーション(IFC)カンボジア・タイ・ベトナム地域マネージャーのサイモン・アンドリュース氏とベトナム香港協会の副会長のフレッド・パーク氏からベトナムの社会主義移



アジアフォーラムの受付



アジア・フォーラム 運営役員の皆様

行後のビジネス展開や香港・ベトナムにおける人民元決済に関する講演があり、その後、ネットワーク・ランチョンが行われ、香港協会会員以外の多くの企業人・ビジネスマンと交流ができました。

午後は、マレーシア・シンガポール・タイの香港協会から活動報告がされた後、次回のアジア・フォーラムの日本での開催が決議されました。

夜は、在ベトナム・中国大使や在ベトナム・マレーシア大使などの来賓の皆様のご臨席のもと、ディナー・レセプションが華やかに行われました。

会場から「同じアジアの国でも、香港人は儲かると思うとすぐに実行する。タイ人は親戚・家族に相談して実行する。シンガポール人は、周りの色々な人に相談しても、確実に儲からないと実行しないとされるほど、ビジネスに対する考え方、スタイルが違う」との発言がありましたが、結びつきの強いアジアの香港協会が年に一度集まり、情報交換・意見交換をすることは大変有意義であると感じました。

2013年のアジア・フォーラムは日本で開催予定ですので、全国日本香港協会・香港貿易発展局の御協力宜しくお願い致します。



懇親会でハノイ事務所開設のテープカット